

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：渚滑川流域のケショウヤナギ保全に向けた取り組みについて		
水系/河川名：渚滑川水系 渚滑川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：1240km ²	整備計画流量：1500m ³ /s(W=1/50)	セグメント：1
事業：河川改修	事業開始年度 平成22年度	
目標設定：定性的	段階：P(計画時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)、移植、植樹		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮		

背景・課題、目標設定

〈背景〉

渚滑川には国内で長野県の梓川、日高管内の日高幌別川・猿留川、十勝管内の十勝川水系、渚滑川にしか自生が確認されていないケショウヤナギの貴重な群落があるが、群落面積は年々減少傾向にある。

一方で、渚滑川には流下能力が不足している箇所があり、将来的に河道掘削を行う必要がある。

渚滑川の特徴的な河川環境を保全するため、河川整備と合わせてケショウヤナギ群落の新規創出を検討しているが、現在新規創出の手法が確立されていないため検討を行う必要がある。

〈目標〉

- ・渚滑川の特徴的な河川環境があるケショウヤナギ群落の保全と新規創出する手法の確立。
- ・地域と一体になった保全活動の体制づくり。

取り組み内容・対策例

〈ケショウヤナギ新規導入試験〉

母樹の新規創出の可能性を検討するため、2つの試験を実施。

・苗新規導入試験(H29年度実施)

苗を育てる際の環境条件を確認するため

試験区に概ね3m間隔で苗の植樹を行う。

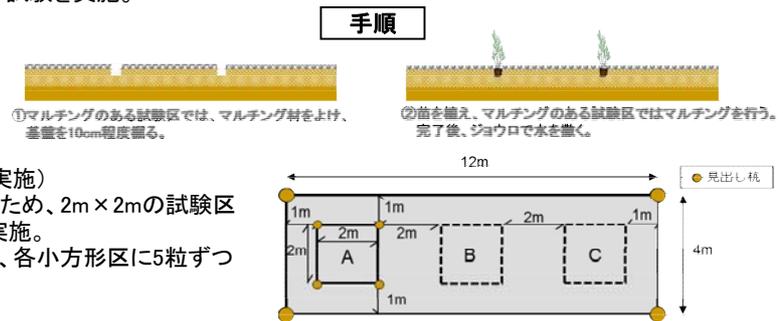
* マルチングあり 苗数：120個(33m×27m)

* マルチングなし 苗数：30個(15m×12m)

・種子新規導入試験(マルチングあり)(H29年度実施)

越冬可能なサイズに成長する時期を把握するため、2m×2mの試験区をA、B、C、3つ設置し6、7、8月に播種試験を実施。

各試験区は0.2m×0.2mの小方形区に区分し、各小方形区に5粒ずつ蒔く。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

〈H29年8月までのモニタリング結果〉

・苗新規導入試験

6月20日に苗の植栽を実施し、8月の生存率はマルチングあり区20%マルチングなし区40%となっている。

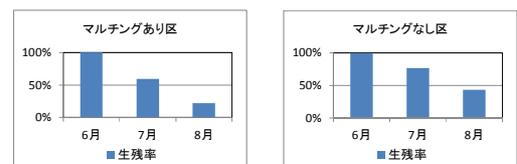
生存率が小さいのは鹿による食害や、乾燥などが主な原因と考えられる。

今後の対応についてはアドバイザーから助言を頂きながら検討を進めていく予定である。

・種子新規導入試験

1区間500粒の播種を行っているが現段階では発芽がほとんど見られない結果となっている。

そのため、試験区Bでは砕石の一部を取り除き、試験区Cでは地盤の保水性が原因と考え一部に火山砂を敷設して播種試験を実施している。



備考

現在、河川整備と合わせてケショウヤナギを保全していく上で、河川管理者のみで取り組むのではなく希少性と景観資源としての価値を地域住民にも認識してもらい「地域と一体」で保全していくことが今後の保全活動の継続性にも繋がると考え、H28年度から紋別観光協会と共催し、現地市民見学会を開催している。

問い合わせ先 北海道開発局 遠軽開発事務所 河川課

電話番号 0158-42-2112

渚滑川流域のケショウヤナギ 保全に向けた取り組みについて

Keywords : 環境保全・創出, 地域連携, 河川景観

●ケショウヤナギ



●市民見学会



渚滑川には希少性、良好な河川景観から観光資源として期待されているケショウヤナギが群生していますが、年々減少傾向にあります。今後、群落地での河川整備が予定されているため保全に配慮した進め方が課題になっています。保全方法の検討と地元観光協会と連携して保全に向けた取り組みを行っているので紹介します。